

# 基調講演

## みんなの力で子どもを守ろう — 子育て支援ネットワークの強化に向けて —

### 講師 プロフィール

#### 川崎 二三彦氏

子どもの虹情報研修センター 研究部長

1975年、京都大学文学部卒。京都府の各児童相談所で心理判定員（児童心理司）及び児童福祉司として、約30年あまり相談業務に従事。京都府宇治児童相談所相談判定課長を経て、平成19年4月から現職。

現在、社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会委員、全国児童相談研究会（児相研）代表委員、日本子ども虐待防止学会理事など。





2013/11/16

子どもの虐待防止推進全国フォーラムinおおい

## みんなの力で子どもを守ろう ～子育て支援ネットワークの強化に向けて～

子どもの虹情報研修センター 川崎 二三彦

「児童虐待に関する相談対応件数は依然として増加傾向にあり、子どもの生命が奪われるなどの重大な事件も後を絶たない状況にあります」

本シンポジウムの案内は、冒頭でこのように述べています。子どもだけでなく、加害者である親も苦しむ児童虐待を、ではどのようにして克服すればよいのか。この問題は広く深く、その全貌を的確に捉え、方向性を示すのは簡単なことではありません。

子どもの虹情報研修センター（日本虐待・思春期問題情報研修センター）で勤務する私は、児童虐待について常に考える立ち位置にいますが、考えていくと、この問題は私たちの社会に刺さった棘とげのようなものだと感じます。児童虐待は、家族という密室の中で人知れず生起する事象であるにもかかわらず、私たちの社会が抱える矛盾を鋭く照射し、その解決を、つまりは棘を抜くよう迫っていると思えてなりません。そうだとしたら、児童虐待を克服するには、実際に通告を受けて対応する職員だけでなく、多くの人たちが、また社会の幅広い分野で活動する方々が真剣に考え、検討し、力を合わせて解決を目指すべきものではないかと思えます。

シンポジウムの案内は、先のフレーズに続けて、

「児童虐待問題は社会全体で解決すべき重要な課題であり、虐待の発生予防、早期発見・早期対応から虐待を受けた子どもの自立に至るまでの切れ目のない総合的な支援が必要です」

と訴えています。本日は、「児童虐待問題は社会全体で解決すべき重要な課題」という指摘を深めるとともに、児童虐待を克服するために大切な子育て支援ネットワークの強化のために、私たちができることは何か、皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。